



# 生物暦 Vol.12

～いきものこよみ～

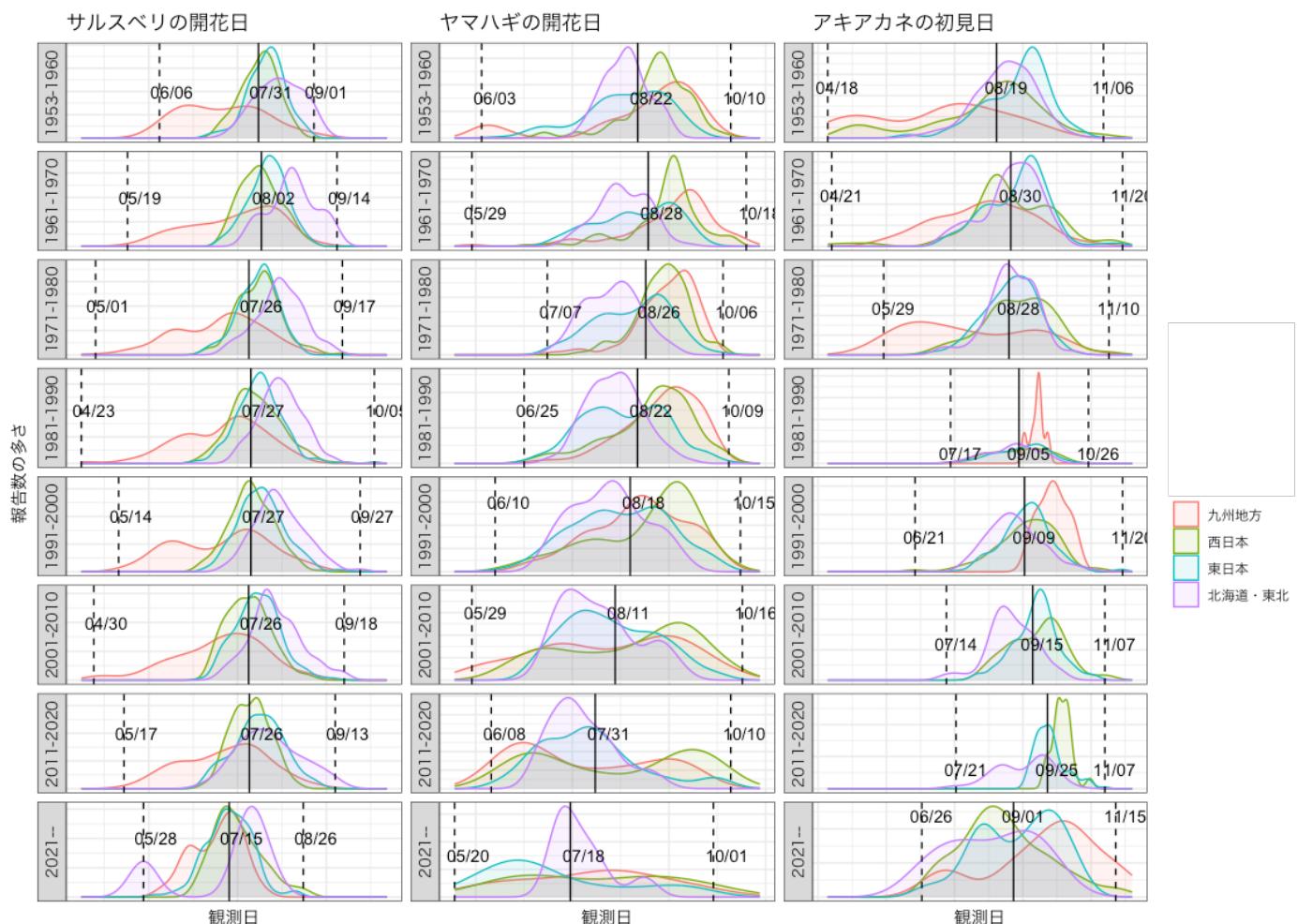
国立環境研究所 生物季節観測研究チーム 2025年8月26日発行

## 1. ごあいさつ

調査員の皆様、いつも生物季節モニタリングにご協力いただきありがとうございます。8月も後少しで終わりますが、夏が終わりそうな気がしません。酷暑の中、みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

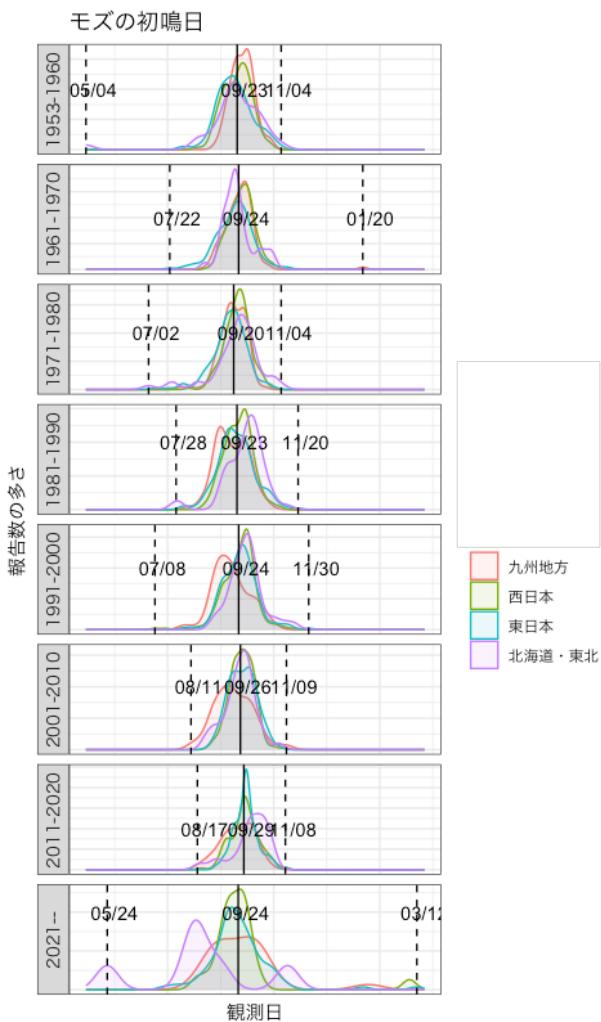
## 2. 夏の生き物の生物季節

連日猛暑日ではありますが、それでも夏から秋へ、観測できる生き物も変わってくる時期です。ということで、この時期に観測できる重要種目の中から、「サルスベリの開花日」、「ヤマハギの開花日」、「アキアカネの初見日」、「モズの初鳴日」の観測時期をグラフに表してみました。



気象庁が観測していた1953年から今までを、10年ごとに区切ってまとめています。観測した地域を九州地方、西日本、東日本、北海道・東北地方の4つの区分に分け、色を変えて示しました。黒い線は全国平均、点線はそれぞれ最も早い／最も遅い観測日です。1番下のパネル（2021-）が、市民調査員の皆さんからお送りいただいた観測報告をまとめたもので、気象庁の観測をもとにした7つのパネルとはデータの数や観測地点が異なることに注意してください。

（西日本は近畿地方、中国地方、四国地方、東日本は中部地方、関東地方を含みます。）



サルスベリは中国が原産の樹木で、庭や公園などによく植えられています。全国的に、1950・1960年代と比べてみると、サルスベリの開花日が少しずつ早まっている傾向が見られます。市民調査によるデータも、過去の気象庁の分布と似ています。

ヤマハギも開花日の全国平均は早くなっていますが、その傾向には地域差が見られます。東日本エリアと西日本エリアでは開花日のピークが異なっている様子が見られます。全国平均は早くなっていますが、その傾向は北海道・東北、東日本の地域で顕著です。市民調査データでは、西日本エリアはデータが少ないためにわかりにくいですが、東日本エリアでは開花日が早くなっているようです。

アキアカネの初見日は、全国平均で見ると少しずつ遅くなっていますが、北海道・東北、東日本の地域ではあまり変化はありません。ここで注目したいのは、九州地方で、気象庁のデータは1980年代から報告数が減少し、2000年以降は報告がありませんでした。しかし、市民調査員の皆様のおかげで、しばらくデータがなかった九州地方でも観測報告が集まってきました。

モズの初鳴き日は、最も早い／遅い初鳴き日は異なりますが、全体としては大きな変化がなく、例年ほとんど同じ時期に初鳴きが報告されています。気候の変化の影響をあまり受けないのでしょうか。

こうして、これまでのデータをまとめて全体を俯瞰してみると、開花や初鳴きといった季節的な生き物の反応が、時代とともに少しずつ変化しており、さらにその変化は、種ごとに、地域ごとにも異なっていることが見えてきます。私たちが生き物から受け取る季節感は、50年前とは少し変わってきているのでしょうか。

活動へのご意見・お問い合わせの窓口

E-mail: ccca\_phenology@nies.go.jp

Tel: 0298-50-2375 担当：松島・西廣